

新しい医療ケアの在り方

取締役薬剤部長 フアルマ弘前薬局局長 相馬 渉

5月12日(金)～14日(日)第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が名古屋で行われ、学会登録6000名、現地参加2000名と多くの参加者がありました。ポートメッセなごやは、とても広い会場で、18の分科会がワンフロアになつており、移動が楽でも見やすかったです。たくさん学びがありました。が、とても感銘を受けたシンポジウム(旅行を処方「医療X旅行」で患者の生き方を多業種連携で実現する「ミヨコナ時代の新しい医療のカタチ」)を紹介します。

皆さん、旅行医について知っていますか？在宅医療や家庭医療の現場において、がんや難病をはじめとした様々な疾患を抱える患者は、「旅行にいきいたい」という願いをもっていることがありますが、多くの患者は病気を理由に旅行を諦めている現状が確認されています。そこで、医師が旅行会社(トラベルドクター)を立ちあげました。



広い会場の中で様々な分科会へ参加しました

心理的安全性の高い職場を目指して

藤代薬局 薬局長 木村 匡宏

5月13日(土)青森県医連医療・介護安全学習会に参加しました。約100名の参加者で岡山協立病院医療安全管理部リスキマネジャーの佐藤恭江氏を講師に「チーム医療に大切なこと」と心理的安全性のある職場づくり」をテーマに行われました。

「心理的安全性」はGoogleが「生産性の高いチーム」はどのようなチームか？」を研究した際に最も生産性が高かったのが心理的安全性の高いチームであったという結果から有名になった言葉です。組織やチーム全体に向けた「率直な意見」「素朴な質問」「違和感の指摘」がいつでも、誰もが気兼ねなく言えることが大切で、そのためにはチームメンバー同士のお互いの日常的な物語を共有することがポイントということでした。普段、良かれと思って使っている言葉が実はチームの心理的安全性のために良くないという話も



たくさんの参加者と共に講義を聞き学びました

14才のわたし

ファルマ 一ツ谷薬局 薬局長 西沢 光

数号前で村上薬剤師の「あの頃のわたし」にてソフトテニスのことが紹介されていました。

便乗して、私もソフトテニスをしていた頃を紹介したいと思います。私は中学から高校までソフトテニス部に在籍していましたが、村上薬剤師のように全国大会に行ったなどの輝かしい成績はありません。それでも純粋なあの頃は、朝から晩まで、天気がよかろうが悪かろうが部活に励んでいました。この写真は中学2年生の時に千葉県白子町で行われた大会に参加した際のアップの様子です。

とても素晴らしいバックハンドのフォームですね。フォロースルーしやすいように、スタンスは相手に背中を向けるクローズ気味。スイングが窮屈にならないため、打点も前気味になります。そのためストレート・逆クロス・ミドルのいずれのコースにも打ち分けでき、相手前衛の位置も把握できるためポーチ回避もしやすくなります。腰が旋回中の写真ですが、その後腕を下から上に振りぬくことを意識してください。ドライブ回転がかかり、重く速い球を打てるようになります。私が中学生の時は、前衛はサーブ開始時にエンドラインからのスタートでした。そのためストロークしながらネットに向かうことも多々ありましたが、この頃ちょうどルール改正の過渡期であり、従来の雁行陣だけでなくダブル後衛・前衛など戦略も多岐にわたるものになってきました。

新型コロナの影響が治まりつつあるなか、ファルマでもスポーツサークル活動が活発になり、皆さんと交流する機会がもっと増えればいいなとこの記事を書いていて感じました。



きれいなフォームでボールを返す西沢薬局長

写真紹介

青森大学薬学部セミナー

5月27日(土)青森大学にて合同就職セミナーが開催され、同大学出身のファルマ浪岡薬局の高橋和希薬局長とファルマ一ツ谷薬局の西沢光薬局長、本部の館田事務長が参加しました。

薬剤師を目指す学生17名にファルマの魅力や薬剤師業務について伝えました。



学生に説明する高橋薬局長(左)と西沢薬局長(右)

りんご広場集会

5月14日(日)、第67回「憲法9条守れ戦争法廃止!集会パレード」がりんご広場で開催され、本部の工藤留美さんが参加しました。雨の降る中20数名の参加者が集まり、安藤晴美県議も挨拶、パレードに参加されました。



雨が降る中、安藤県議(右)も通行する人に訴えました

禁煙についての出前講座

6月8日(木)弘前市内の企業向けに「禁煙について」の出前講座を行いました。講師はファルマ弘前薬局の葛西副薬局長で、参加者は29名でした。

参加者からは「禁煙補助薬はどこで買えますか」などの質問がありました。



禁煙について講義する葛西副薬局長